

第3回東京大学医学系研究科公共健康医学専攻運営諮問会議  
議事録

日時：2021.12.13（月）10：00～11：45

場所：Zoom オンライン会議

出席者：浅野委員、坂元委員、高原委員、馬場委員

陪席者：橋本（公共健康医学専攻長）、福土、平井、原田（大学院担当）

<議事>

1. 事務局挨拶

橋本専攻長より、挨拶が行われた。

2. 委員、出席者照会

橋本専攻長より、委員紹介がなされた。

3. 議長選出

橋本専攻長より、議長について自ら担当してよろしいか提案があり、審議の結果、承認された。

4. 教育活動報告と質疑

1) 2021年度の学事歴及び前回委員会後の経過について橋本専攻長から資料に基づき説明があった。

続いて質疑応答が行われた。

（坂元委員）オンライン形式での授業の展開について、今後コロナ禍が去った後どのように展開していくか。

（橋本専攻長）大学全体としては、文部科学省から出されたポストコロナの方針に従う。講義全体の半分は対面で行う必要があるが、オンラインの方がより学習効果が高いものについては対面の中にオンラインも取り入れてもよいという方向性。

統計はオンラインで行った方が分かりやすいと学生に評価されている。講義中、チャットに質問が書き込まれ、溜まったところでまとめて答えるという進め方をしている講義もある。もちろんディスカッションなど対面でないと難しい場合もあるが、オンラインのよさは残していきたい。

（坂元委員）オンライン講義をビデオライブラリにしたりしているのか

（橋本専攻長）個人的なサイトやクラウドで配布している人はいる。

（高原委員）法学部では、全ての授業をレコーディングし、Google driveにアップロード

して ITC-LMS に掲載することになっている。学期が終了するとすべて消去される。

入試について、2021 年度入学者で英語や数学の知識が足りなかった学生は、授業を行って見てどのような感触だったか。

(橋本専攻長) 数学については統計学の教授から例年にはない primitive な質問があったと報告されているが、そういった学生も授業についていくことはできて、単位は落としていない。

(高原委員) 2022 年度の入試では、面接は行ったか。また、エッセイの提出などは課したか。

(橋本専攻長) 面接も行った。また、小論文も提出させ、20 点満点で評価を行った。

(高原委員) 留学生に対してはどのように試験を行ったか。

(橋本専攻長) 面接は英語で、小論文も英文で書かれたものを受理したが、それ以外は日本語ベースで行った。

(高原委員) ミャンマーやアフガニスタンの学生はいたか

(橋本専攻長) 今年はいなかった。

(浅野委員) 自主学習の輪に入れていない学生のフォローについて

(橋本専攻長) 研究室に配属されている学生はコミュニティを持っている。今年は幸いに 1 年コースの学生のうちほぼ全員が研究室に入った。

他には同窓会主催の学生のための Slack や、講義後に雑談の場として Zoom を開いたままにしておく教員もいる。

(浅野委員) 2023 年度入試を独自の英語試験に戻すということだが、2022 年度入試の反省にあった外部英語試験導入についての告知期間が短く志願者が減ったことによるのか、外部試験に問題があると判断したのか。

(橋本専攻長) 告知が短かったのは確かだが、TOEFL や IELTS には Listening や Speaking も含まれるため対策が必要で、社会人には負担がかかる。その割に英語力がある人を呼び込めたわけでもないのだから、最低限我々が求める読む力だけでもしっかり持った人を取るため、独自の試験に戻すこととした。

(浅野委員) 2023 年度入試も、もしもコロナ感染の状況が続いたらオンラインで行うのか。

(橋本専攻長) 仮に今年と同じ状況となった場合、オンラインにするしかないと考えている。判断は 6 月になるが、その場合でも外国語はオンラインで独自の試験を行い、TOEFL/IELTS は使用しないつもりでいる。

(馬場委員) 就職支援についてされていることはあるか。

(橋本専攻長) 東京大学では就職の公募窓口はおいていないが、キャリア相談は毎年行っている。今年も 12 月の頭に行い、同窓会から起業した OB やヘッドハンティングされた OB を招いた。

(馬場委員) 23 区でも院卒を採用する動きはあるが、自治体の試験は 6 月～8 月に動きが

ある。この期間に試験を受ける準備ができるようにしてもらえばよいが。

(橋本専攻長) 公務員試験について、個人が自発的に計画している場合はあるが、こちらからの呼びかけは行っていない。昨年度大学基準協会と協力して行政機関に働きかけ、キャリア説明会を開催したが、参加は2自治体のみであった。行政に MPH を認識してもらえていないという問題がある。

2) 大学基準協会による外部審査(3回目)及びその他の活動報告、昨年度運営諮問委員会での指摘について橋本専攻長から資料に基づき説明があり、これに対して質疑応答が行われた。

(坂元委員) 認証評価について、内部質保証はどのように行っているのか。

(橋本専攻長) 個々の授業に対する学生の評価を教員全体に共有し、それぞれで改善を行う。特に問題がある場合は研究科委員から当該教員に申し入れをする場合も稀にある。全体としての適正化は難しく、この点は今回の評価でも指摘があった。

(坂元委員) 認証評価では長所・特色ある点にはどのようなことが挙げられたか。

(橋本専攻長) 特にどの点が、ということはなく、全体として高い水準を保っているという評価であった。また、コンピテンシー教育の導入に対する取り組みは評価された。

(坂元委員) コロナ禍で国民から日本の医療の公共性についての疑念が出ているが、こうした問題を講義に反映させるなどしているか。

(橋本専攻長) まだ合議できていない。帝京大学では早々に取り組み本にまとめられているが。

(高原委員) 公衆衛生について、他のライバル校との関係は

(橋本専攻長) 公衆衛生大学院としては京都、九州、聖路加、帝京、東大の5校とプログラム校が21校ある。それぞれに特色がある。公衆衛生は人材育成が依然弱く、競うよりも協調関係を持つことが大切だと考えている。

(高原委員) 協調という面では公共政策では連絡協議会というものがある。

(橋本専攻長) 公衆衛生にも、先に述べた5校、21校それぞれの連絡協議会があり、東大はこれまで幹事校として活動してきた。

(浅野委員) 専門職大学院の役割として、社会ですぐに活躍できる人材育成があると考えられる。そういう意味でも厚労省の教育訓練給付制度は良いと感じた。

(橋本専攻長) ただ、教育訓練給付は入学前に安定した職についており、卒業後2ヶ月以内に職につかなくてはならないという限られた制度。

医療職ではない方へのフォローは別に必要。実践の場を用意する必要がある。

(馬場委員) 足立区で行って頂いた保健所支援について、専門家が入ったことで職員側にも学びがあり、助かった。継続を希望する。インターンシップの機会も探していきたい。

(橋本専攻長) ぜひ学生に現場で判断が求められるという機会を頂きたい。

## 5. 次年度教育計画と質疑

橋本専攻長から以下の説明があった。

- ・教授の定年退官にともない精神保健学Ⅱ、保健行政・健康危機管理学実習は次年度休講となる
- ・課題研究について、残りの教室で受け入れることとなるが、指導体制をどのように整えるかという点が課題。

## 6. その他

特になし。

## 7. 閉会挨拶

最後に、橋本専攻長から各委員の協力に対し謝辞が述べられ、閉会した。

以上